

薬剤耐性の仕組み解明

福島医大のぼうこうがん研究



福島医大

医学部泌尿器科学講座

の真壁俊太

助手(31) 写真

の研究

医大が25日発表した。ば

うこうがんは国内で年間約

2万人が罹患し、特に「筋

層浸潤性ぼうこうがん」は

た。

腫瘍が大きくなると、治療薬が効きにくくなる。薬剤耐性の仕組みを解明した。耐性をつくっていた原因を阻害する薬を併用することで、薬物耐性を克服できる可能性が明らかになりました。治療薬の効果を持続さ

せる新たな治療戦略の開発につながるという。

医大が25日発表した。ば

うこうがんは国内で年間約

2万人が罹患し、特に「筋

層浸潤性ぼうこうがん」は

た。

腫瘍が大きくなると、治療薬が効きにくくなる。薬剤耐性の仕組みを解明した。耐性をつくっていた原

因を阻害する薬を併用する

ことで、薬物耐性を克服できることで、薬物耐性を克服できる可能性が明らかになりました。治療薬の効果を持続さ

が一定の効果を示すことが

FR-1」を高発現する筋層浸潤性ぼうこうがんについては、治療薬の効果や耐性が明らかになつていなかつた。

真壁氏や泌尿器科学講座の小島祥敬教授、生化学講座の西田満教授による研究チームは「FGFR-1」を高発現する筋層浸潤性ぼうこうがんの細胞を用いて、

「エルダフィチニブ」の作

知られている。ただ、治療を続けるうちに薬物耐性ができる。効果が持続しないこと

が問題になっており、さ

れで「MET遺伝子」が増幅されると、耐性を効果的に抑制

できることが分かったとい

う。研究成果は米国の学術誌「セルテス＆ティジーズ」に掲載された。

明。MET阻害薬を併用す

ると、耐性を効果的に抑制

できることが分かったとい

う。研究成果は米国の学術

誌「セルテス＆ティジーズ」に

掲載された。

相馬の「長屋」研究冊子に 医大

福島医大医学部放射線健康管理学講座の研究チームは、東日本大震災後に相馬市が整備した高齢者集合住宅「相馬井戸端長屋」の入居者を対象に、市と連携して取り組んできた長期研究の結果を冊子にまとめた。

福島医大医学部放射線健康管理学講座の研究チームは、東日本大震災後に相馬市が整備した高齢者集合住宅「相馬井戸端長屋」の入居者を対象に、市と連携して取り組んできた長期研究の結果を冊子にまとめた。

「長屋」という居住形態が高齢者の孤立防止や健康維持に効果的だったことなどを解説しており、県内外の関係機関に配布して相馬市の教訓を防災施策に役立てもらう。

研究チームは、市が新たに整備した高齢者集合住宅「相馬井戸端長屋」の入居者を対象に、市と連携して取り組んできた長期研究の結果を冊子にまとめた。



研究成果をまとめた冊子

樹、斎藤宏章、伊東尚美の各氏らが参加。研究代表者の坪倉正治主任教授は「行政と大学が協働し、現場に寄り添いながら、長期的に検証を続けてきた点に本研究の意義があり、得られた知見を今後の高齢者支援や地域づくりに生かしていく」とコメントした。

冊子は約5千部作成し、相馬市役所や保健センター、図書館など市内をはじめ浜通りの関係機関、能登半島地域、南海トラフ地震防災対策推進地域指定市町村に配布する予定という。